



ヘリオトロン」における干渉計測による ガスパフ密度変調実験

<u>大谷芳明¹, 野崎勇樹¹</u>

田中謙治², 南貴司³, 大島慎介³, 秋山毅志², 長崎百伸³, 中村祐司¹, 岡田浩之³, 門信一郎³, 小林進二³, 山本聡³, 木島滋³, 釼持尚輝¹, 呂湘浔¹, 水内亨³

> ¹京都大学エネルギー科学研究科 ²自然科学研究機構核融合科学研究所 ³京都大学エネルギー理工学研究所

otani.yoshiaki.68r@st.kyoto-u.ac.jp



1. 導入

3. 計測結果

4. 粒子輸送解析手法及び結果



1. 導入

3. 計測結果

4. 粒子輸送解析手法及び結果



▶粒子輸送特性に対する水素同位体効果は、将来のD-T反応による核融合 炉の閉じ込め性能を評価する上で重要。

▶ASDEXトカマクにおいては軽水素プラズ マよりも重水素プラズマの粒子輸送特性 が良いと報告されている。

[K. W. Gentle et al., Nucl. Fusion 32. 2 (1992)]

▶ヘリカル型装置であるCHSにおいては n_e < 2.5×10¹⁹ m⁻³の密度領域において、 軽水素プラズマと比較して重水素プラズ マの拡散係数は小さく、大きな内向き対 流速度を持つが、 n_e > 2.5×10¹⁹ m⁻³の 密度領域では、明確な粒子輸送特性に対 する水素同位体効果は観測されていない。 [K. Tanaka et al, to be published Plasma Phys. Cotrl. Fusion (2016)]





JT-60U, ASDEX, CHS 等において、ガスパフ変調実験が行われており、 多視線の干渉計を用いた計測により、粒子輸送特性の評価をしている。

[K. NAGASHIMA et al., Nucl. Fusion **33**. 11 (1993),K. W. Gentle et al., Nucl. Fusion **32**. 2 (1992), K. Tanaka et al., to be published Plasma Phys. Cotrl. Fusion (2016)]





1. 導入

3. 計測結果

4. 粒子輸送解析手法及び結果





ヘリカルコイル
Pole / Pitch number L/M =1/4
プラズマサイズ

- 大半径 = 1.2 m
 - 小半径 = 0.1 ~ 0.2 m
- 磁場強度 B_{Tmax} ≤ 1.5 T
- 電子密度 n_e:1x10²⁰m⁻³ 面子调度
 - 電子温度 T_e:2.5 keV
- イオン温度 T_i:0.4 keV
- 加熱装置 ECH, NBI, ICH
- 給気装置 ガスパフ, SMBI, ペレット











FIRレーザー干渉計:周辺領域を中心に計測 マイクロ波干渉計:全域を計測 →比較することで周辺領域から中心領域への 変調成分の伝搬を調べる。



1. 導入

3. 計測結果

4. 粒子輸送解析手法及び結果





密度変調 : n_e^{MICRO} ~ 0.6 x 10¹⁹ m⁻³ ± 10 %

➡ FIRレーザー干渉計とマイクロ波干渉計間の 位相差と振幅比をフーリエ解析により評価

10



重水素及び軽水素プラズマの線平均電子密度に対して、マイクロ波・FIR レーザー干渉計間の位相差及び振幅比を求めた。



位相差・振幅比ともに重水素プラズマの方が大きい値をとった。



1. 導入

3. 計測結果

4. 粒子輸送解析手法及び結果



粒子輸送解析の流れ





密度変調分布のモデル計算 1/2





密度変調分布のモデル計算 2/2



D, V, \widetilde{S} 及び ω が決まれば密度変調成分が求まる

15



–スの分布の仮定 及び拡散係数・対流速度分布形状の仮定

~ <u>ソース分布 S</u>





トムソン散乱計測で得た温度・密度分布及び スラブモデルにより計算した中性粒子密度か らソース分布を計算。

<u>D, Vの分布形状を仮定</u>

マイクロ波・FIRレーザー干渉計の 2視線のみ

- ▶ 拡散係数分布はプラズマ全域で一定
- ➤ 対流速度分布はpに比例

すると仮定。





 \blacktriangleright D_0 = 0. 65 m²/s , V_0 = -16 m/s , ω = 2 $\pi*50$ rad/s としたとき



 D_0 , V_0 をスキャンすることにより、実験値と矛盾のない 位相差・振幅比をもつ D_0 , V_0 を求める。



拡散係数は重水素プラズマの方が小さく、対流速度は同程度 であった







▶ヘリオトロン」において重水素プラズマ及び軽水素プラズマの粒子輸送特性を評価するために、ガスパフ変調実験を行った。

▶ECHプラズマに対し、ガスパフを用いて線平均密度が0.6 x 10¹⁹ m⁻³ ±10%の範囲で密度変調をかけた。

▶マイクロ波及びFIRレーザー干渉計により計測した線平均電子密度に対しフーリエ解析を行うことにより、各視線における線平均電子密度の変調成分の振幅比及び位相差を求めた。

▶各干渉計から得られた密度変調の振幅比及び位相差はいずれも重水素 プラズマの方が大きい値となった。

>ソース分布及び拡散係数・対流速度分布を仮定したモデル計算と実験 結果との比較を行い、重水素プラズマ及び軽水素プラズマの拡散係数 及び対流速度を評価した。

▶重水素プラズマの拡散係数は軽水素プラズマの拡散係数より小さく、 対流速度は内向きで同程度であった。